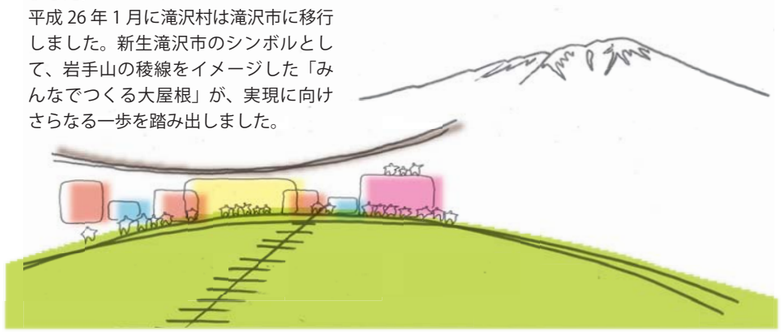
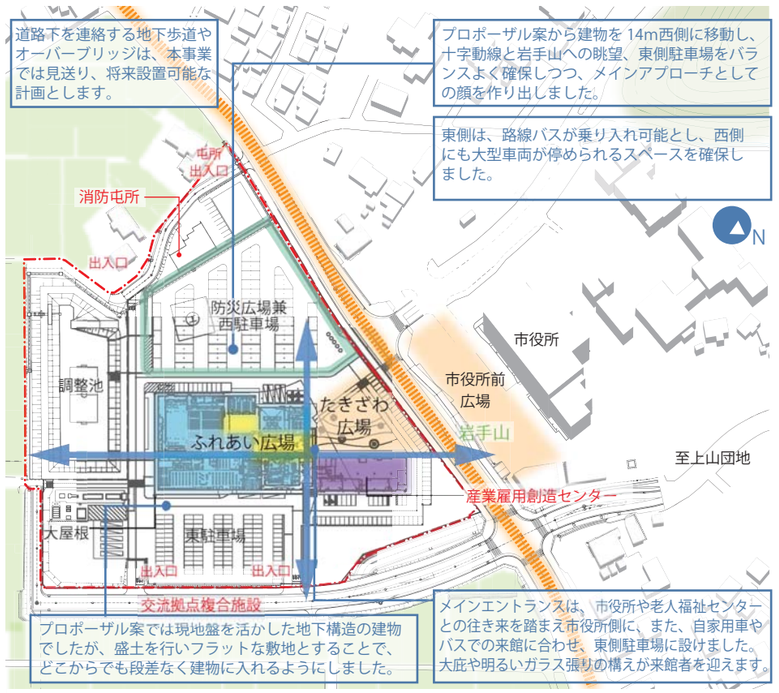
みんなでつくるふれあいの大屋根

平成 24 年夏、「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」にて選定された案を基に、建設推進委員会、建設推進プロジェクトチーム会議、作業部会ワークショップなどで議論を重ね、また、ユニバーサルデザインの専門家やホールの専門家などの意見を聞きながら、今回実施設計がとりまとめられました。
平成 26 年 1 月に滝沢村は滝沢市に移行しました。新生滝沢市のシンボルとして、岩手山の稜線をイメージした「みんなでつくる大屋根」が、実現に向けさらなる一歩を踏み出しました。



あたらしい交流のカタチを目指した「まちなみ」形成の実現

- 敷地内には周辺住民の日常動線である小道が南北東西に通っていますが、それを十字の動線として室内に取り込み、どこからでも気軽に入れる施設とします。
- 動線にそって各々の部屋をまちなみのように配置することで、住民の交流が生まれ、深まります。
- さらに、南北の軸線上には、みんなの活動を見守るかのようにそびえる秀峰「岩手山」を眺望することができます。
- 本施設へのアクセスは、交通量の多い県道からの直接の出入りを避け、新しく整備される交差点（右折レーン付）及び新設の市道から安全に出入りできる車両動線としました。



たきざわ広場：
市役所前広場と一体的に利用できるもので、市の中央広場として整備します。
産業雇用創造センターと複合施設に直接面するように配置することで、各種イベント時には建物と広場が一体となって機能します。
また、県内でも有数の交通量を誇る県道から多くの視線を受けながら、たきざわの魅力を効果的に発信することができます。
うるおい空間を演出するため、一部を緑地として整備します。

滝沢総合公園との連携：
本施設内の飲食やイベント機能と総合公園のレクリエーション機能や花と緑を連携し、家族や仲間で 1 日遊べる居心地のよい施設群を提供します。

災害時も連携する「災害に強いまちづくり」：
滝沢市役所、交流拠点複合施設、防災広場の 3 つの施設が相互に補完し連携します。複合施設は、複合的防災拠点として、消防、警察や自衛隊、医療関係者やボランティアなどの活動支援機能と共に、高齢者や障がい者などの要援護者の避難場所、支援物資の一次保管などの機能を持ち、防災広場は、災害時に自衛隊や救援物資輸送トラックの駐車場、災害用仮設テント、災害用マンホールトイレが利用でき、また、消防訓練ができるように計画します。

産業雇用創造センター：
「たきざわ広場」に直接間口を面し、県道からの視認性を高め、市役所との連携や複合施設との連携に優れた配置とし、たきざわのアンテナショップとしての機能を担います。また屋上にはテラスを設け、周囲の山々や自然を感じながら景観を楽しむことや、チャグチャグ馬コなどのイベントを鑑賞することができます。

消防屯所：
主要交差点から離れた配置とし、緊急車両の出入を容易にします。
防災広場と隣接させ、災害時の活動拠点とします

メインエントランス

エントランス（たきざわ広場側）

大屋根のもとに集う　　市民のよりどころ (寄り拠) となる施設

- いつでもにぎわい溢れる施設となるよう、施設の中心になる位置に交流の要となる「ふれあい広場」を配置しました。
- 「ふれあい広場」は、ガラス壁を通して岩手山が見え、県道側からは中の様子が見え興味を引き立てるように計画しました。また、大階段が 2 階に続いており、開放感を引き立てます。
- トップライト、ハイサイドライトからの日だまり、景色のよい場を建物の中心に置き、若者にとってアクティビティとにぎわいあふれる施設、お年寄りにとって静かで長時間居られる施設、子育て世代にとって安心して子供を遊ばせることができる施設を目指します。

大屋根の下で演じる　　市民がワクワクする施設

- 大屋根の下で、中と外が一体的に活用できるよう数々の工夫を試みました。
- 施設のほとんどが一階であるため、一つの町のように移動することができます。それは、外からアクセスしやすいふれあい広場、ホワイエと繋がり、大ホール、小ホールの壁を移動させることでさらに広がり、多様なイベントに対応できます。
- 建物から出ると「たきざわ広場」が広がり、活動しやすい舗装空間とうるおいのある緑地で構成し、飲食、休憩など様々な活動が可能です。
- 「たきざわ広場」には 80m×80m の防災広場が隣接しており、チャグチャグ馬コや防災行事などのイベント時は両方で約 9000 ㎡の大空間を提供することができます。

大屋根とともに暮らす　　環境にも自然にも優しい施設

- 大屋根の下に諸室を配置し、夏や中間期は 2 階ハイサイドライトによる自然の風の導入により涼しい風の通り抜けを作り出します。また冬は 2 階ハイサイドライトによる日射エネルギーにより、太陽光を引き入れるハイサイドルーフアトリウムとし、あたたかな空気を循環させる空調システムにより省エネにも寄与します。
- 大屋根の下に各室を機能的に配置することで、基本計画時の複合施設 5,000 ㎡、産業雇用創造センター 900 ㎡を守りながら（設計値はそれぞれ 5,016 ㎡と 899 ㎡）、使いやすく安らぎのある空間を実現しました。
- 建物のボリュームは大屋根の稜線により周囲の風景になじんだ景観とします。

大屋根にまもられた安心安全の施設　　市民をまもる施設

- 避難受け入れ拠点として、水、エネルギーの 72 時間自給を最低限確保します。
- 降雨時・積雪時にも利用しやすい施設として、駐車場を施設になるべく近いところに配置した上で、建物の回りを通路とし、大屋が掛かっていることで、移動がしやすくなります。障がい者車両や検診車は、屋根の下に配置しました。

ふれあいを育てるしくみ

大ホール　1,152 ㎡　観客席 486 席（エアチェアー 216 席、せり 144 席 +48 席、2 階 78 席）平土間時約 500 ㎡

・大ホールは、基本計画の席数や平土間時のフロア面積を基本に、1 階席 408 席、2 階席 78 席合計 486 席を確保するとともに、昇降床によりフロア面積約 500 ㎡を確保しました。（昇降床などについては、3 ページで詳しく説明しています。）

・ステージは、開口部巾 18m、高さ 8m、奥行 12mを確保し、バトン・照明器具を適宜配置し、多様な公演に対応しました。

・音響反射板ほか、ホール内の音響設計を行い各種コンサートに対応しました。

・大道具がスムーズに出入りできる搬入スペースを設置しました。控室を 3 室用意しました。

・大ホールのホワイエ側の壁面と小ホールのホワイエ側の壁面を可動式の間仕切りとしました。このことにより、3 つの空間を一体的に利用したイベントが可能となったほか（全体で約 1,000 ㎡の大空間）、大ホールは 1 次会場、ホワイエ、小ホールは 2 次会場と壁の区切り方でいろいろな空間構成ができ、多様なイベントの開催が可能です。

・ホールでの公演時に女子トイレが不足するという要望を受け、男子トイレを一時的に女子トイレとして利用できるように工夫しました。

ホワイエ　約 200 ㎡

・大ホールや大会議室、小ホールでの公演や会議などの際、受付や休憩スペースとして活用されます。

・展示パネルや仮設ステージを使用し、展示ギャラリー、ミニコンサートなどの多様な活用に対応しています。

・通常時は、テーブルとイスを置き、学習や読書、休憩に対応します。

大会議室　133 ㎡

・大会議室は、一室で 70 名程度が利用でき、3 分割することで各部屋 24 名程度の会議室としても利用できます。また、大ホールや小ホールの控室としても利用できるよう計画されています。

小会議室　（4 室）20 ㎡ 2 室、26 ㎡ 2 室（防音室）

・近年のサークル活動などでは 10 人以下の小人数の利用が多いことから、最も利用率の高い部屋として、4 室を建物の中心に配置し、外からも活動が見えるようにしました。

・4 室の内、2 室については完全防音とし、若者に人気のある楽器演奏などにも対応できるようにしました。

図書館　842 ㎡ 閲覧席 56 席

・プロポーザルの「賑やかな図書館」から出発し、静かすぎる図書館ではなく、居心地のいい図書館を目指しました。

・ゲートを図書館の中央付近にし、事務室などの管理関係の部屋、閉架書庫、移動図書館車庫を南側にまとめて配置することで、利用者や職員の動線をスムーズにしました。

・入口近くに雑誌、新聞、郷土史などのコーナーを設けるとともに、窓際を中心に閲覧席を 56 席設けました。

・児童図書のコーナーを手前にし、事務室から目が届きやすくするとともに読み聞かせコーナーを設けました。

・図書への日照の影響を最小限にするため図書館を東側に配置するとともに、窓際に閲覧席を配置し、窓にはブラインドを設置しました。

・一方で、明るさと開放性を確保するため、天井を高くし、大窓を設けました。

・本の修理スペースや共同研究などのための多目的室を設置しました。

・図書館は将来蔵書 10 万冊（一般図書 5 万冊、児童図書 1 万冊、閉架書庫 4 万冊）の計画とします。

・図書館へのＲＦＩＤ（ＩＣタグ）、自動貸出機等について導入を検討しましたが、将来の対応とすることとなりました。

・2 階の学習スペースと行き来できるように階段を設け、またミニシアターや読み聞かせなどで中会議室や和室に直接行けるようにしました。

小ホール　228 ㎡（キャットウォーク除く）防音室

・大ホールとの相性を考え、また検診時の利用なども踏まえ、西側に配置しました。

・軽運動、ダンスといった活動から、講演、会議、展示会等まで幅広く利用できる部屋で、最も利用頻度の高い部屋の一つとなるでしょう。

・少人数の公演（演劇やコンサート）にも対応できるように、キャットウォークを設けています。

・クッキングスタジオに隣接させることで、大規模な会合やパーティなどでの利用に配慮しました。

創作室兼準備室　52 ㎡

・床は土間としているため、少々の荒い利用や、汚れものの作業でも大丈夫であり、各種創作活動やハンギングバスケット講習なども可能としています。

・災害時の炊き出しを想定し、ガスと流し台を設置。西側駐車場に面しているため、大屋根の下で屋外と一体的な利用も可能です。

クッキングスタジオ　79 ㎡

・たきざわ広場、ふれあい広場、産業雇用創造センターとの連携を踏まえ、この位置に配置しました。

・ふれあい広場に面してガラス壁とし、また、内装に明るいカラーを用いることで、活動が楽しく、外からもそれが感じられるようにします。

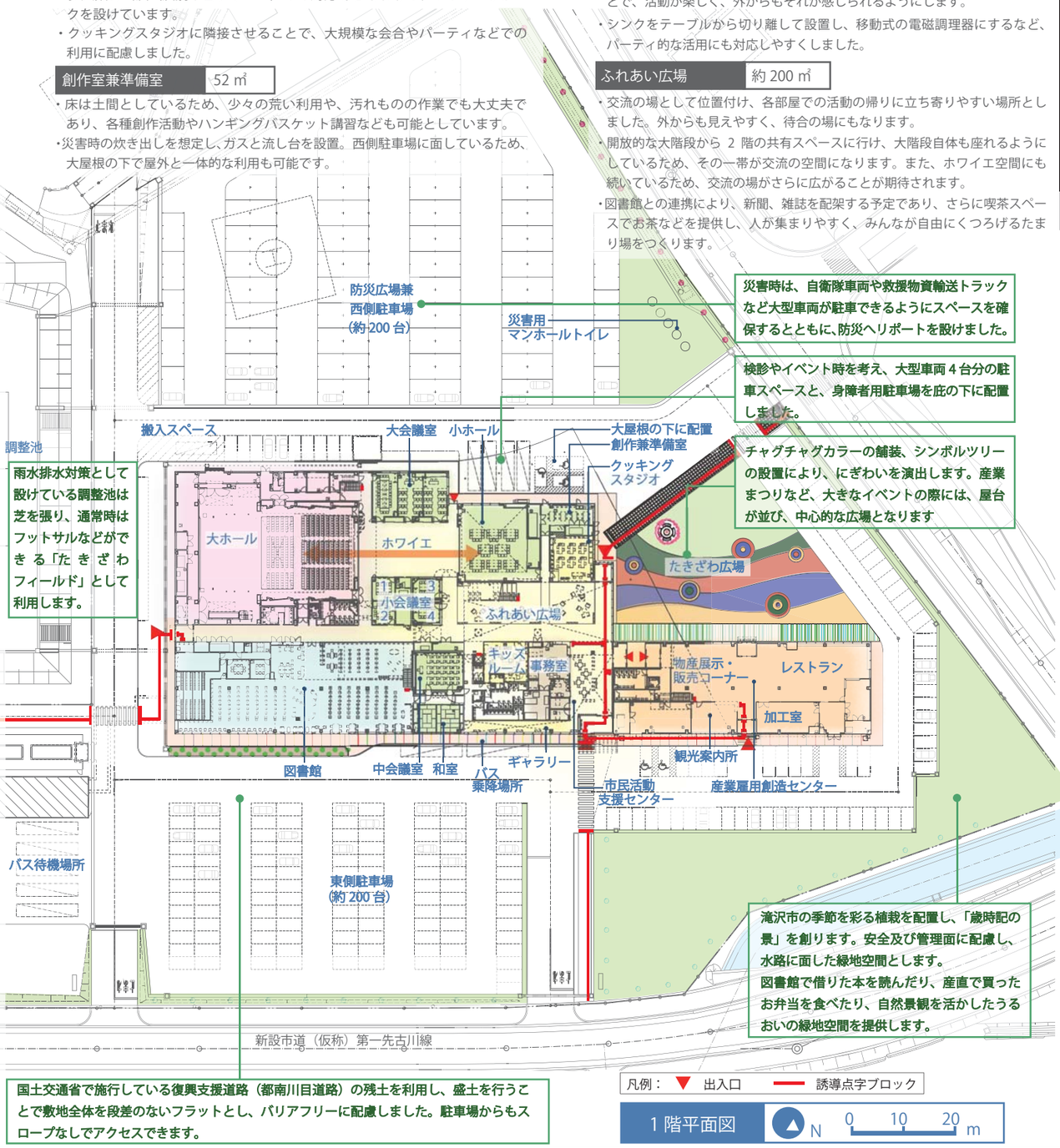
・シンクをテーブルから切り離して設置し、移動式の電磁調理器にするなど、パーティ的な活用にも対応しやすくしました。

ふれあい広場　約 200 ㎡

・交流の場として位置付け、各部屋での活動の帰りに立ち寄りやすい場所としました。外からも見えやすく、待合の場にもなります。

・開放的な大階段から 2 階の共有スペースに行け、大階段自体も座れるようにしているため、その一帯が交流の空間になります。また、ホワイエ空間にも続いているため、交流の場がさらに広がることが期待されます。

・図書館との連携により、新聞、雑誌を配架する予定であり、さらに喫茶スペースでお茶などを提供し、人が集まりやすく、みんなが自由にくつろげるたまり場をつくります。



雨水排水対策として設けている調整池は芝を張り、通常時はフットサルなどができる「たきざわフィールド」として利用します。

災害時は、自衛隊車両や救援物資輸送トラックなど大型車両が駐車できるようにスペースを確保するとともに、防災ヘリポートを設けました。

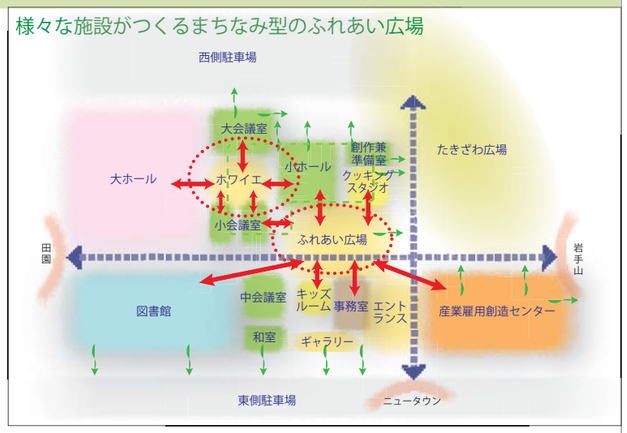
検診やイベント時を考え、大型車両 4 台分の駐車スペースと、身障者用駐車場を庇の下に配置しました。

チャグチャグカラーの舗装、シンボルツリーの設置により、にぎわいを演出します。産業まつりなど、大きなイベントの際には、屋台が並び、中心的な広場となります

滝沢市の季節を彩る植栽を配置し、「歳時記の景」を創ります。安全及び管理面に配慮し、水路に面した緑地空間とします。
図書館で借りた本を読んだり、産直で買ったお弁当を食べたり、自然景観を活かしたうるおいの緑地空間を提供します。

国土交通省で施行している復興支援道路（都南川目道路）の残土を利用し、盛土を行うことで敷地全体を段差のないフラットとし、バリアフリーに配慮しました。駐車場からもスロープなしでアクセスできます。

様々な施設がつくるまちなみ型のふれあい広場



市民活動支援センター　57 ㎡　印刷室含む

・自治会活動や NPO 団体など市の様々な活動を支援するコーナーで、各団体の活動状況やサークルの案内などＰＲに有利な、人通りの最も多い面に配置し、来館者への情報発信を行います。

・印刷機や紙折り機などを設置し、団体の活動を支援します。

ギャラリー　65 ㎡

・メインエントランスの顔の一角として、外からよく見える場所にギャラリースペースを設けました。

・回遊式に約 20 メートル繋がる静かな空間であり、市民の作品発表の他、パネル展示などにも適しています。

事務室　83 ㎡ 相談室 2 室含む

・メインエントランスを入ってすぐの東西南北の十字の中心になる、来館者に分かりやすい場所に配置し、「事務室」というよりは「サービスセンター」として市民が気軽に声を掛けられる雰囲気を目指します。

・相談室は、団体や個人の活動の相談に応じられよう、2 室を設けています。

キッズルーム　64 ㎡

・ふれあい広場から中の様子が伺える位置とし、子供のエネルギーをみんなで共有するとともに、暖かくその活動を見守られるよう配慮しました。

・親子が心地よく居られるように床暖房を採用しました。

・キッズルームに隣接して、授乳室、子供専用トイレ、多目的トイレを配置しています。

中会議室　82 ㎡　防音室

・中会議室は、フローリングの防音とし、また、上足で利用する部屋とすることで、寝ころがったり、軽運動ができるようにしています。

・和室と連続しており、どちらも上足であるため一体的な利用ができます。

・和室とともに図書館から直接行けるようにし、図書館で行なう読書会やミニシアターなどのイベントを行ないやすくしました。

和室　77 ㎡　前室 含む

・和室は着付けやお茶会等での利用はもとより、畳のもつ柔らかさ、ぬくもりなどからママ友の会などの利用もあるでしょう。

・中会議室と和室との間には、給湯設備を設置しています。

・12 畳、15 畳の 2 室をとして、または全体を 1 室として利用できます。

産業雇用創造センター　941 ㎡

・滝沢市の観光発信、ブランド発信、産業発信の拠点として、複合施設と相乗効果が生まれるよう同じ屋根の下に配置しました。

・観光案内所機能を持ち、観光客への案内やパンフレット類の配置を行ないます。

・市内の観光物産、特産品、農産物、工芸品等の展示・販売を行ないます。

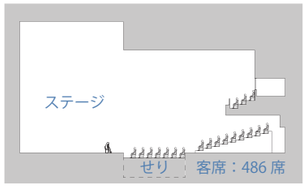
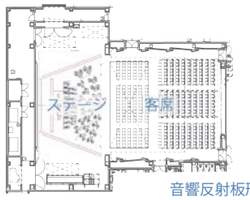
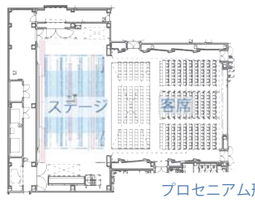
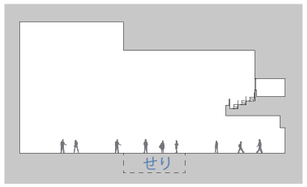
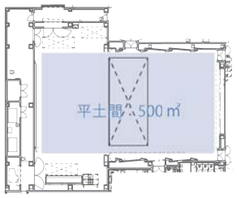
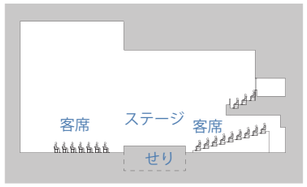
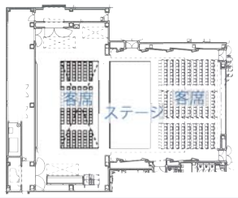
・市内の農産物、水産物、加工品などを使用したレストランで滝沢市の食を提供します。

・市内の農産物、水産物などで加工食品を製造します。

ふれあいを育てるしくみ

大ホール

・新たなホール形状の提案。基本計画時での 500 席、500 ㎡の平土間は、客席部分が間延びしてしまいバランスが悪いため見直しを行い、舞台部分を含めて平土間を確保することで、鑑賞者、演技者双方にとってバランスのとれたホール空間を創出することができました。
・これは、客席を一部昇降床としたもので、昇降床を下げた場合、1 階 408 席、2 階 78 席、合計 486 席となるほか、昇降床を上げてステージとすることもでき、この場合、1 階席 216 席とし小規模の公演を行なうことや、昇降床のステージを挟んで両側を観客席とするなど、多様な構成が可能となります。
・500 ㎡の平土間として活用する場合は、ロールバックチェアと呼ばれる収納式のイスを収納した上で、三分割にし、エアキャスターと呼ばれる空気圧を使った移動方法で、ステージ脇などに移動し、空間を確保します。

	断 面	平 面	平 面
舞台利用時		 音響反射板形式	 プロセニアム形式
平土間利用時	 平土間：500 ㎡		
可動床舞台利用時			

ホール～　客席側イメージ

学習スペース

・大屋根下の天井が高い空間を有効利用して、ふれあい広場から視認性の高い位置の２階に学習スペースを設け、小中高校生徒の集まる場をつくります。

ふれあい広場上部

・大階段を設け、人の活動が外からも感じられる場としました。また階段を座席とし、ちょっとした休憩の場として使えるように工夫しました。
・ふれあい広場の上部を吹き抜けとし、１階と２階の一体感を作り出します。またトップライト及びハイサイドライトを設けることで、外から光を取り入れ、明るくて暖かい空間を作り出します。

屋根

・屋根材は、費用対効果、将来のメンテナンスを含め比較検討を行い、シート防水対応を採用します。
・雪対策については、屋根に貯める対応とし、雪の落下対策として、屋根先端部にヒーターの設置を行います。

エレベーター

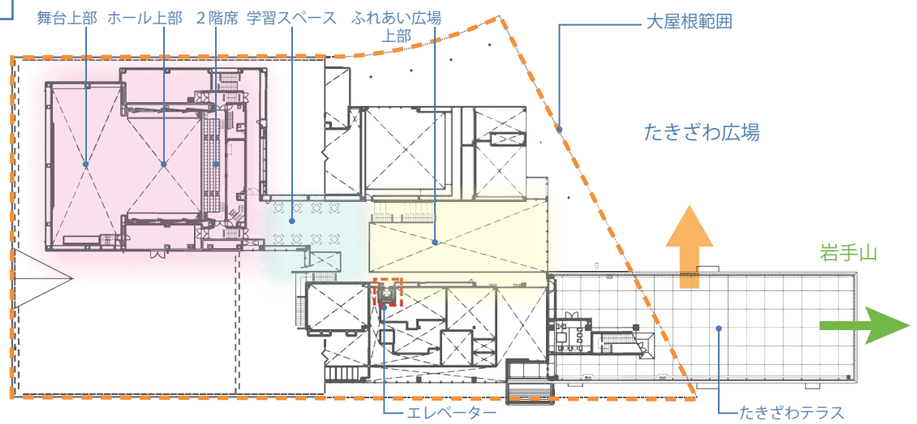
・ユニバーサルデザインに配慮し、建物の中央部にエレベーターを設置します。
・メンテナンス費用も考慮し、交流センター２階用とたきざわテラス用を兼用する計画とします。

たきざわテラス

・岩手山や四季の表情豊かな景色が楽しめるたきざわテラスを配置します。
・たきざわ広場でイベントが行われた際、たきざわテラスから観覧できるようにします。

２階平面図

N　0　10　20 m



ふれあい広場　～　大階段・雑誌・喫茶コーナーイメージ

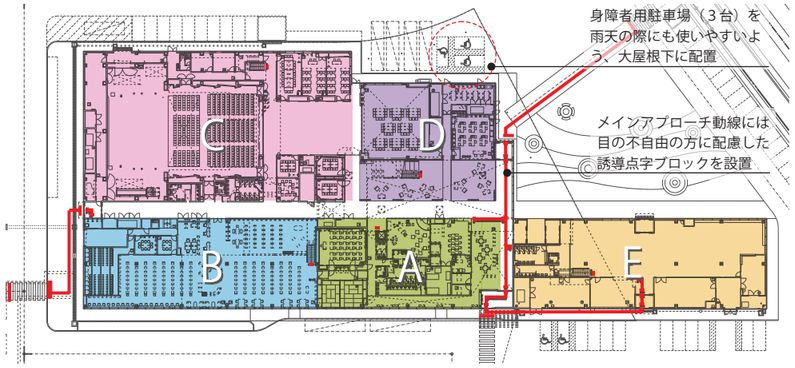
図書館　～　窓際の読書スペースイメージ

ふれあいを育てるしくみ

■だれにでも分かりやすい、使いやすい、親しみやすい「ユニバーサルデザイン」の実現するため、岩手県立大学社会福祉学部 狩野徹先生と共同により設計しました。

施設構成

東西・南北に抜ける明快な動線計画により誰にでも分かりやすい施設構成とします。



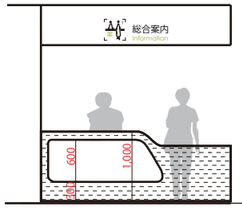
館内エリア色設定

館内の各エリアにテーマ色を設定し、メイン室の扉などに着色することで、どこにいても、自分の居場所をすぐに確認でき、また目的地を分かりやすく探すことができるように配慮しました。

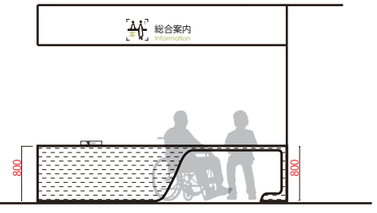
インフォメーション

・総合案内サインは、親しみやすい図柄、図面は触知図とし、目の不自由の方にも利用しやすいように配慮しました。
・余白部分はスチール下地となっているので、掲示板としても利用できます。

子ども、お年寄りでも使いやすい高さのカウンターとします。

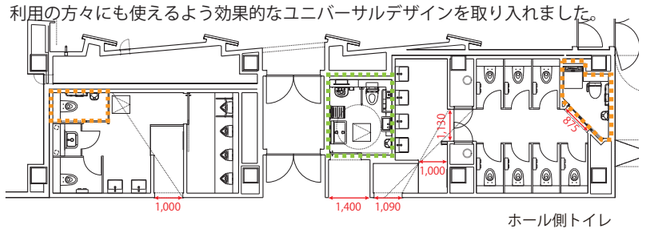


車いすがカウンターに入り込める高さのカウンターとします。

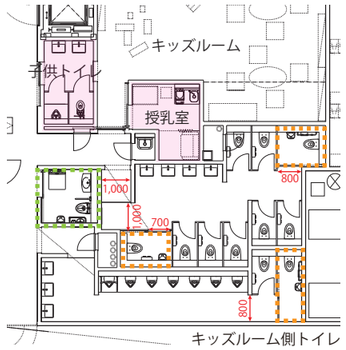


トイレ計画＆サイン

トイレは同じ大きさのブースを単調に配置するのではなく、ブースの大きさを一部広げるなどの対応により、多目的トイレ利用時の代替、子供連れ、ベビーカー利用の方々にも使えるよう効果的なユニバーサルデザインを取り入れました。

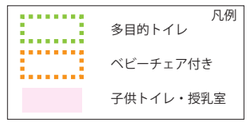


ホール側トイレ

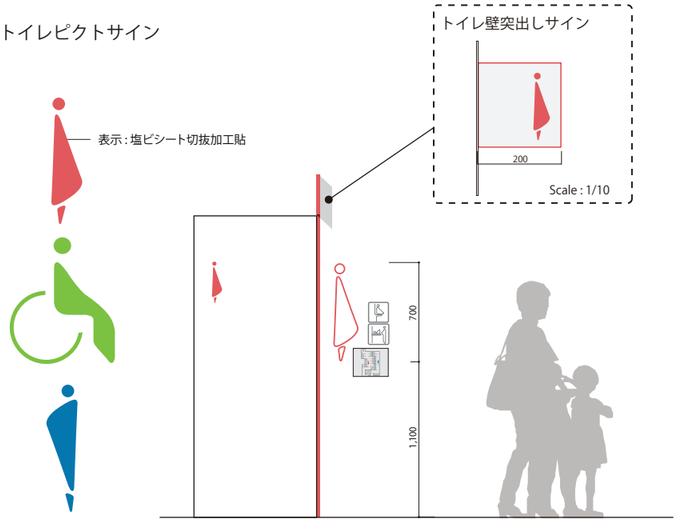


キッズルーム側トイレ

・小さな子どもがひとりでも使えるように子ども専用のトイレを設置します。
・安心して利用できる、使い勝手のよい授乳室を設置します。
・ブースの扉は一律同じ開きとするのではなく、不特定多数の利用者を考慮して右開き、左開きと引き戸としました。



トイレサインは見やすさ、分かりやすさを重視し、軸線上に突出しサイン、またトイレの前には色付きの大型サインを設置します。入り口脇には触知サインを設け、目の不自由の方々にも配慮しました。
ピクトサインは他のオリジナルサインに合わせて柔かい雰囲気のデザインとしました。

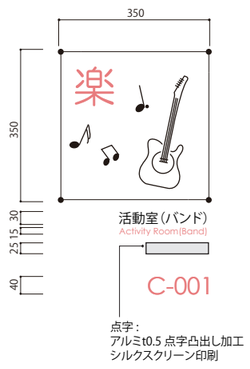


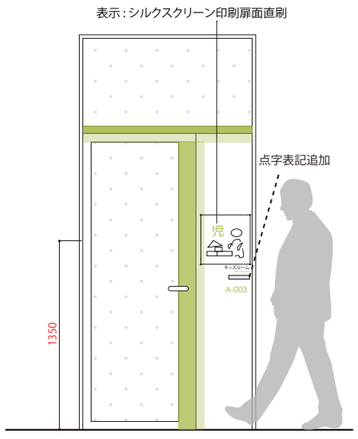
オリジナルサイン

交流拠点施設ということで、だれにでも、いつまでも親しみを持って楽しんでもらえる施設となるよう、オリジナルサインを考案しました。

識別サイン

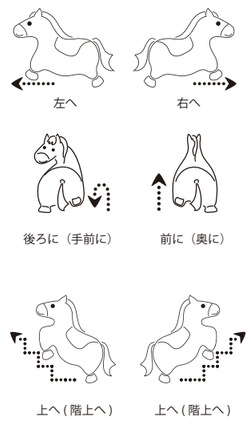
・各部屋識別サインには漢字と絵と色を組合せ、分かりやすくて楽しい雰囲気をつくり出します。
・また点字を併記し、目の不自由の方々にも配慮します。
・さらに国際化を見据え英語名称も併記します。
・一般利用者と車いす使用者の視線に配慮したサイン高さ（一般的な 1,500mm の高さを 1,350mm の高さ）とします。
・サインは見易さを考慮し、350mm 角の大きさとしました。

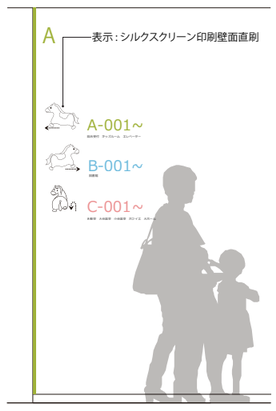




誘導サイン

・たきっこ（仮称）
滝沢市のアイデンティティをアピールできるように本施設のイメージキャラクターとして提案します。「たきっこに付いて館内を回る」ことをイメージして誘導サインを配置します。子どもたちに喜んでもらうとともに、滝沢ブランドをつくり出します。

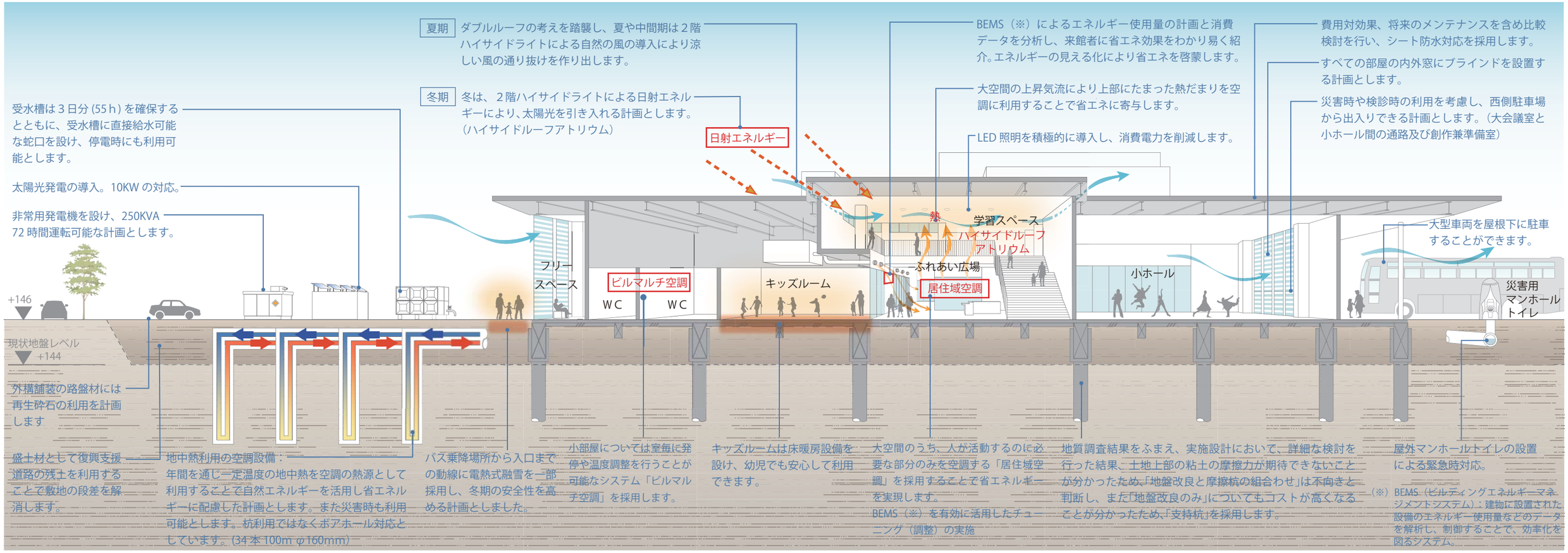




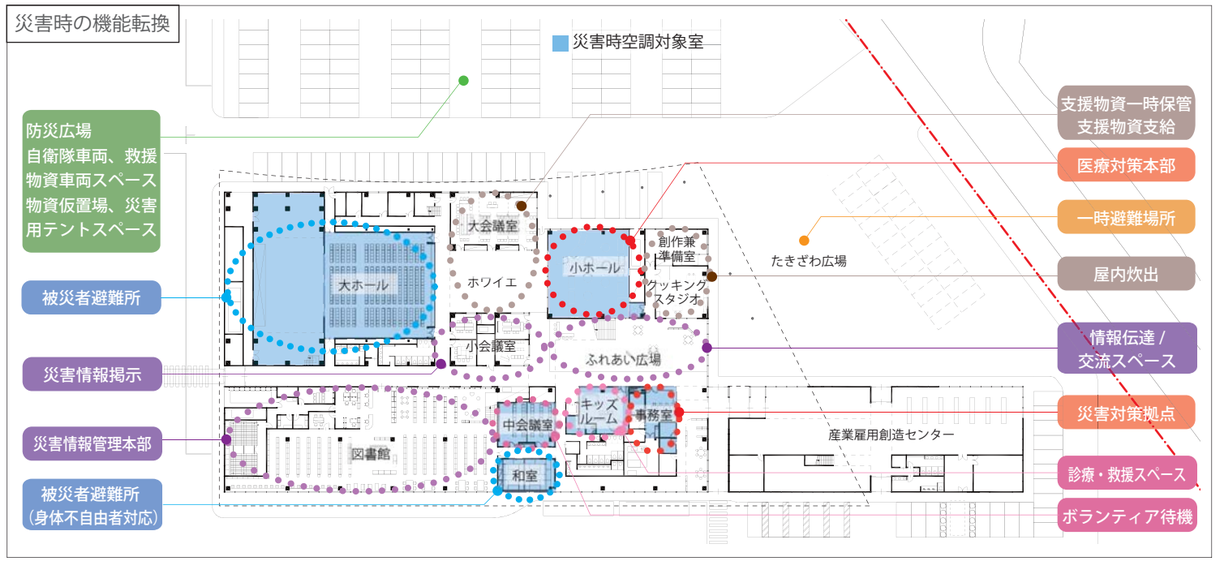
環境に与える影響を極力減らした、「自然や地球と暮らす施設」

・電力負担の平準化とエネルギーロスの削減を図ります。自然換気、外気冷房による負荷の削減＋地中熱利用設備＋共用部への LED 照明導入＋昼光利用による電力負担の平準化を行います。高効率機器の採用や全熱交換機によるエネルギーロス低減を行います。

・建築仕様、設備仕様の見直し等により、エネルギー削減 30%、ライフサイクルコスト 15% 削減の計画としました。



災害時の機能転換



構造・造成・外構防災計画

■構造計画：

・木材を構造材として利用する場合、法的 (建築基準法) に、防火区画を施設内の多くの場所に設置する必要があり、空間の大きな制約や工事費増が見込まれることから、木材の構造材利用の採用を取り止め、鉄骨造に変更します。

・杭形式については、ボーリングデータを基に比較検討を行った結果、摩擦杭は不向きと判断、「支持杭」「地盤改良＋摩擦杭」「地盤改良のみ」の３形式の方向で進める事としました。さらに実施設計において、地盤調査の結果も踏まえ詳細な検討を行った結果、土地上部の粘土の摩擦力が期待できないことが分かったため、「地盤改良と摩擦杭の組合わせ」は不向きと判断し、また「地盤改良のみ」についてもコストが高くなることが分かったため、「支持杭」を採用します。

■造成計画：

・当初は既存の地盤レベル高低差を活用した計画としていましたが、盛土材として、国土交通省で施行している復興支援道路［ 都南川目道路 ］の残土を利用することが可能となり、また敷地内の段差解消の要望も受け、敷地全体のレベル差をなくす計画に見直しました。

・同時に、段差を利用したアイスシェルターの提案については採用を見送ることとなりました。

・外構舗装の路盤材には、基準強度を満足した再生砕石を利用し、高い安全性を確保するとともに地球環境にも配慮します。

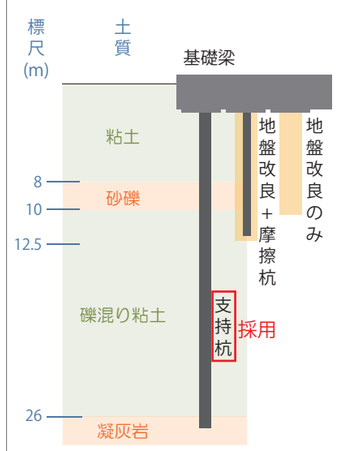
■外構防災計画：

・防災広場は、複合的防災拠点機能の中心。防災訓練の中心となる場で、防災ヘリコプターの離発着できるよう計画します。

・調整池は自然の地盤レベルを利用し、コスト削減を目指すとともに広い面積を確保することで、貯留水深を抑え、軽スポーツ等が楽しめるたきざわフィールドとして整備します。

・雨水利用設備の導入については、建設費用、将来の維持費用と水道費用を比較検討した結果、費用対効果が認められないことから、採用を見送ります。

・防災井戸設備の設置については、井戸の深さがかなり深いことが想定され、費用対効果が見込めないことから、採用を見送ります。非常時は、受水槽に直接給水可能な蛇口を設置し、 停電時にも受水槽貯留分の上水利用を可能とします。

基礎の検討

地盤調査結果（ボーリング N0.6）